

魚釣りと車中泊



森田 芳樹

MORITA Yoshiki

(公社)日本推進技術協会
事務局長

私の趣味のうち、魚釣りと車中泊について話したいと思う。

魚釣りを始めてから25年くらいにはなるかと思う。釣りにも色々あるが私の場合は海釣りだ。堤防釣り、磯釣りでもなく船釣りである。なぜかと言えば、私の魚釣りの第一の目的は新鮮で美味しい魚を食べることだからだ。溪流釣り、堤防釣り、磯釣りでも新鮮で美味しい魚はいるだろうが釣れる確率が低い。第一の目的が食べることから釣れなくては意味がない。最近の釣り船は、レーダーを始め魚探、ソナー、GPSとハイテク装備だから、船長の腕も多少あるが、魚の居る場所へはほぼ確実に行けるのだ。あとは釣り人の腕と魚の食い（餌への食欲？）の良し悪しで釣果が決まる。

船釣りでも五目釣りの様に魚種が多彩な釣りもあるが、普通はタイ狙い、ヒラメ釣りと対象魚が決まっており、釣り船、釣り道具（竿、オモリ、仕掛け）などが決まっている。あれもこれもと欲張りな釣りをすると道具（使うお金も）が増えて収拾がつかな

くなる。私の場合は優先度が釣り味（釣れた時の魚の引き、強さ）もさることながら、美味しく食べることなので、アジ、イサキ、イカ、沖メバルなどよく釣れる魚が主な対象となる。ヒラメやタイ狙いも毎回の貧果にも懲りずによく行ったが、最近は沖メバルにはまっている。関東でも銚子などから釣り船は出ているが、カタ（大きさ）や釣れる数で新潟の（ご当地では深海釣りのハチメと言っているが）沖メバル狙いには敵わない。

私の釣り写真記録をみると2000年から新潟・沖メバルの記録があり、ほぼ毎年ゴールデンウィークに行っている。それもここ数年は、釣りは新潟への泊り遠征釣りのみだ。船は新潟・東港（新潟市中心部より北東へ約15km）から、この季節は午前4時頃に出船する。釣り場は粟島近辺なので50～60kmを1.5時間程走り、5時半頃からの釣りとなる。関東での釣り船は船宿が餌や氷を用意してくれ、釣り人は道具のみを用意すればよいのだが、ここのシステムは、船は釣り人を乗せて釣らせるのみで餌や氷、



船は釣り場へ疾走中

仕掛けは自分で用意する。私はここ数年「鈴木釣具店」で餌、氷、仕掛けを調達し、一休みもさせてもらってお世話になっている。

船長は前日午後7時の気象庁予報をきいて出船の判断をする。ゴールデンウィークの頃は気象状態が安定しないことも多いのだが、7時の決定を聞いてから高速に乗ったのでは現地着が遅すぎるので、どうしても出船を予測しての見切り出発となる。今年もちょっと怪しいかな？と思ったが出発し、現地で午後7時の決定を聞くと風が収まらないので出船しないと言う。翌日はほぼ間違いなく出船するとの事なので、1日現地で待機することとした。ここでもう一つのテーマ「車中泊」ということになる。

私は5年程前に北海道を2週間、ほぼ全て「車中泊」旅行をしたり、「車中泊」そのものも趣味と言えるのだが、釣りと車中泊はセットになっている。今回の様な現地での待機だったり、前日早めに港に着いて出船までひと寝入りしたりする場合、「車中泊」仕様の車は大変便利で快適なのだ。以前は普通

車ワンボックスの後部を車中泊仕様（寝るスペースが完全平面となり、若干の炊事道具やテーブル、イスなどが積み込める）にして、釣りやアウトドア専用で使っていたが、昨年買い換えたホンダNbox+は、軽ワンボックスで限界近く車内空間を広げ、通常の街中使用の状態から車中泊状態へ簡単にシートアレンジが出来る。また快適に寝るためのマットレスや窓の遮光カーテン、バックドアにセットすると簡易テントになる専用オプショングッズが比較的安価で充実している。以前のワンボックスからクルマはずいぶん進化したと感心してしまう。

車中泊は、宿代が要らない経済性のほか、目的地への到着や出発時刻の自由度が高いので、空いている時間に走って有効に時間を使えたり、私にとってメリットが大変高い。最近は釣り以外に近場へ1泊程度の車中泊の旅に出ることも増え、一人旅を楽しんでいる。ただし、車中泊をする場所によって快適度が大きく左右される。ポイントは清潔なトイレが24時間使えること、夜間が静かなこと、安全なこ



いつもお世話になる鈴木釣具店



愛車での中泊



追い食いで1度に4匹

と等である。この点で最近整備の進んでいる「道の駅」の夜間の車両交通が激しくない所はポイントが高い。中には立寄り温泉が併設されている「道の駅」もある。

さて話を魚釣りに戻すが、その晩は近くの「道の駅」で泊まり、翌日は温泉施設で1日まったりと過ごした。その晩7時の天気予報はOKで、「鈴木釣具店」で仕掛け、餌、氷を仕入れ翌朝4時の出船となった。ここ新潟での沖メバル釣りを簡単に説明すると、オモリは200号（750g）、仕掛けは全長6.5mの幹糸に10本の枝糸に針が付いている。餌はホタルイカをつける。私達は食べる外側の身は剥いて、目の間の硬い部分に針をさす。目と内臓が怪しく光り、メバルを誘うらしい。メバルは海底岩礁付近に群れているので、オモリを底（いつもの場所は深さ約100m）まで着けて根がかりしないように少し巻き上げアタリを待つ。佐渡・粟島沖のメバルは25cm～35cmと大きい。アタリがあり1匹掛かってもすぐに巻き上げてはいけない。追い食いを待つのだ。食いが良ければメバルの群れが次々と掛かってくる。過去には10本針にパーフェクトに掛かり、電動リールが力不足で手巻き補助しないと上がらなかった事もある。メバル釣りでは1匹のアタリから次々と追い食いしてグングン引く釣り味がたまらない。巻き上げた時に何匹釣れているのかが楽しみなのだ。よく釣れる時は釣果が50～60匹となる。30ℓ程度のクーラーでは入りきらない。地元の常連



クーラーに入りきらないことも（2009年）

さんは100ℓ程度の大型クーラー持参だ。

話は盛り上がってしまったが、今回は1日待機して意気揚々と釣り場に向かったのだが、波が荒く食いが悪い。昼過ぎまでの釣りタイムなのだが、昼を過ぎ波が収まり、ようやく釣れだしたところでタイムアップとなってしまった。ここ数年にない貧果だ。なんとか我が家分のみが確保できた。

私の釣りは「魚を美味しく食べる」ことが大事なので、最後に魚料理の話をしたい。沖メバルは皆さんご存知のように煮付が大変美味しい。この時期は「筍メバル」というくらい筍が旬なので、釣りの帰りに仕入れて一緒に煮る。刺身はもちろん美味しいが日持ちがしないので、大漁のときはコブ締めにし、真空パックして冷凍する。美味しい魚を釣って帰途のクルマを運転しながら、どうやって食べようかと考えるのが楽しい。

私の釣り以外の趣味もホームページ「もりたさんちの趣味工房」（検索サイトでヒットします<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~morita/>）に掲載しているので、ご興味があれば訪問していただきたい。